

虹のかけ橋

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.t-yamabiko.asago.hyogo.jp/>

「不登校に関する研修会」～未然防止、予防的観点から～



甲南女子大学
川島 芳雄 先生
8/11 丹波の森公苑
(丹波市)

ひきこもり状態にある子と
その家族への支援

○ひきこもり状態にある子の心理状態やそのプロセス、またその子と家族への支援の在り方についてお話しいただきました。演習では、効果的な保護者面談のスキルアップのために、カウンセリング技法の実践やロールプレイ、意見交流を行いました。参加者からは「義務教育期の不登校対応が重要だと感じた」「原因の詮索よりも状態の理解と見通しを持つことが大切だと勉強になった」などの感想をいただきました。



日本福祉大学
野尻 紀恵 先生
9/3 県立総合体育館
(西宮市)

子どもの育ちを支える
～ネットワークによる環境への働きかけ～

○現代の子育ての現状や子どもの貧困、子どもを支援するためのネットワーク作りについてお話しいただきました。演習では、不登校支援ツールとしてのジェノグラムとエコマップについての理解を深め、実際にエコマップを使ったケース会議を行いました。参加者からは「子どもたちにとって大切なのは人のつながりだと再認識した」「問題なのは行動ではなくその背景だということが分かった」などの感想をいただきました。



神戸親和女子大学
長谷川 重和 先生
9/25 洲本市文化体育館
(洲本市)

不登校を出さない学級経営

○不登校を出さない学級経営の手法として、教育的グループワークや構成的グループエンカウンター等について演習を交えてお話しいただきました。演習では、学級で使えるグループアプローチの手法としてのソーシャルスキルトレーニング（アイ・メッセージ、アサーショントレーニング）を小人数のグループで行いました。参加者からは、「学級づくりの重要性を再認識した」「具体例を教えていただいただけでなく、これまでの学級経営を見直す機会にもなった」などの感想をいただきました。



姫路市総合福祉
通園センター
小寺澤 敬子 先生
10/27 県立教育研修所
(加東市)

医療の視点から見た気になる子への支援

○医療の視点から、発達障害の理解をもとに個々の子どもに対する支援方法について具体例を挙げてお話しいただきました。演習では、学級でできるソーシャルスキルトレーニングと不登校の支援ツールとしてのエコマップの描き方、活用の仕方を小人数で行いました。参加者からは「今後、どんな視点や心構えで子どもたちと関わればよいか多くのヒントをいただけた」などの感想をいただきました。



名城大学
曾山 和彦 先生
11/4 姫路市市民会館
(姫路市)

発達障害が疑われる子への支援と学級作り

○特別支援教育の観点から、「気になる子」が溶け込む学級づくりについてお話しいただきました。演習では、不登校の未然防止への手立てとして日常的に行えるソーシャルスキルトレーニング（リフレーミング、アサーティブな自己表現）を行いました。参加者からは「周りの子を育てると全体が上がるという話から学級づくりが核になることを改めて感じた」などの感想をいただきました。

県立但馬やまびこの郷の事業について

(1) 4泊5日以内の宿泊体験活動

料理・スポーツ・製作など様々なプログラムを体験し、体を動かすことで子どもたちは変化していきます。

初めて利用される場合は、緊張や不安の高い子どももいますので、まずは見学や体験からスタートされることをお勧めします。宿泊日数等についても、個々の子どもの状態に応じて臨機応変に対応しています。



(2) 教育相談

電話相談や来所相談（ケース検討も含む）、また所長によるカウンセリング（木、金）も行っています。ぜひ一度お電話ください。

(3) 指導者の研修

「公開講座」や「不登校に関する研修会」など、不登校の未然防止、予防的観点を中心に、毎回違ったテーマで研修会を開催しています。また、各種研修（校内研修）に指導主事を派遣し、未然防止の取組や子どもたちへの関わりについて話をさせていただきます。



(4) センター的な役割

機関紙（「虹のかけ橋」教職員向け、「やまびこ」保護者向け）の発行や不登校に関する調査研究を行っています。

今年度末には、不登校支援に関する基本的な手立てをまとめた「不登校支援ガイドライン」を作成します。不登校の子ども様は一人一人違いますが、現在の状況を見極めて、段階に合わせた適切な支援策を講じる必要があると考えます。各校へは、来年度早々に配布いたしますので、支援のヒントに役立てていただければ幸いです。

